
四分空け組の

pTeXでの実装

齋藤修三郎

本文

サイズ 10.5pt (以下 10.5pt を 1a サイズとする)、字間 0.25a アケ、行間アキ 1a。

文字別の設定

漢字 A1 明朝 (モリサワ)

ひらがな 築地体前期五号仮名 (大日本スクリーン)

- 97%センター
- 小書き文字は、106%にしてセンターに
- 「た」は秀英 5号 L (モリサワ) に変更
- 「る」は A1 明朝 (モリサワ) に変更し 93%平体
- 「を」はたおやめ (朗文堂) に変更

カタカナ 築地活文舎五号仮名 (大日本スクリーン)

- 97%センター
- 小書き文字は、106%にしてセンターに

約物の設定

字間のスペースに入れる。天と地にきた際は、上にも下にも飛び出させる。

「」『』 中ゴシック BBB (モリサワ) ↓ 75%→ 75%に縮小。縦棒がグリッドに揃うように調整

() ◇ □ [] 中ゴシック BBB (モリサワ) 75%平体、A1 明朝 (モリサワ) ↓ 75%→ 125%に変形。右端がグリッドに揃うように調整

。 中ゴシック BBB (モリサワ) 100%、「。」の後に全角スペースを入れる

・ 中ゴシック BBB (モリサワ)

！？ 筑紫オールド明朝 (フォントワークス) 100%、後に全角スペースを入れる。組版例ではヒラギノ明朝 W3 を使用

* DF 瘦金体 W3 (ダイナコムウェア) 100%

約物について

「、」は ↓ 75%→ 125%に変形と指定されているが、実際印刷してみたところ、この設定より大きくなっている、↓ 90%→ 150%に変更し、「、」を入力することで元の設定の「、」が出力できるようにした。

「.」を入力することで、後ろに全角スペースを入れたい「。」が出力されるようにした。

欧文の設定

数字は 4 桁まで、欧文は 2 文字まで縦中横。欧文の単語・長文は前後のアキでグリッドに揃える。

数字 RENNER ANTIQUA LT Pro Display: 125%

欧文 RENNER ANTIQUA LT Pro Display: 100%

その他の設定

ルビ サイズ 0.5a、漢字はじゅん 101 (モリサワ)、仮名はメガ丸-Light (視覚デザイン研究所)

割注 サイズ 0.5a、漢字はじゅん 201 (モリサワ)、仮名はメガ丸-Medium (視覚デザイン研究所)

圏点 サイズ 0.5a、リュウミン U-KL (モリサワ) の「ゝ」

見出し

サイズ 1.5a、字間 0.25a アケ。3 行ドリ。

文字別の設定

漢字 筑紫オールド明朝 (フォントワークス) 組版例ではヒラギノ明朝 W3 を使用

ひらがな 築地体三号細仮名 (大日本スクリーン)

- 97%センター
- 小書き文字は、106%にしてセンターに
- 「た」は秀英 5 号 L (モリサワ) に変更
- 「を」はたおやめ (朗文堂) に変更

カタカナ 築地体一号太仮名 (大日本スクリーン)

- 97%センター
- 小書き文字は、106%にしてセンターに

約物の設定

本文と同じサイズで字間のスペースに入れる。天と地に来た際は、上にも下にも飛び出させる。

「」『』 中ゴシック BBB (モリサワ) ↓ 75%→75%に縮小。縦棒がグリッドに揃うように調整

() <> [] [] 中ゴシック BBB (モリサワ) 75%平体、A1 明朝 (モリサワ) ↓ 75%→125%に変形。右端がグリッドに揃うように調整

。 中ゴシック BBB (モリサワ) 100%、「。」の後に 0.25a のスペースを入れる

・ 中ゴシック BBB (モリサワ)

！？ 筑紫オールド明朝 (フォントワークス) 1.5a サイズ、後に 0.25a のスペースを入れる。組版例ではヒラギノ明朝 W3 を使用

欧文の設定

数字は 4 桁まで、欧文は 2 文字まで縦中横。

数字 RENNER ANTIQUA LT Pro Display: 150%

欧文 RENNER ANTIQUA LT Pro Display: 150%

本文用メトリック

本文用の JFM は、ぶら下げ、突き出しに対応するため、文字幅を 0 とし、必要に応じ後続の文字の空きに本来の文字幅を加えることをしている。

本文用設定		後続							
type	width	0	1	2	3	4	5	6	7
0:和文	1	0.25	0	0	0	0	0	0.25	0.25
1:開き括弧	0.25	0	0	—	—	—	—	0	0
2:閉じ括弧	0.25	0	1	0	0	0	0	0	0
3:読点	0.25	0	1	—	—	—	—	—	—
4:句点	0.25	1.25	1	0.15	—	—	—	—	1
5:中黒	0.25	0	0	—	—	—	—	—	0
6:?!	1	1.5	1.25	0	—	—	—	—	1.5
7:2 倍約物	2.25	0.25	0	0	0	0	0	0.25	0.25

本文用 JFM		後続							
type	width	0	1	2	3	4	5	6	7
0:和文	1	0.25	0.25	—	—	—	—	0.25	0.25
1:開き括弧	0	0.25	—	—	—	—	—	0.25	0.25
2:閉じ括弧	0	0.25	1.5	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
3:読点	0	0.25	1.5	—	—	—	—	—	0.25
4:句点	0	1.5	1.5	0.4	—	—	—	—	1.5
5:中黒	0	0.25	0.25	—	—	—	—	—	0.25
6:?!	1	1.5	1.5	—	—	—	—	—	1.5
7:2 倍約物	2.25	0.25	0.25	—	—	—	—	0.25	0.25

見出し用メトリック

見出し用のメトリックは 1a サイズのものを 150%にするのではなく、和文の幅が 1.5a、高さが 0.5a、深さが 1.0a となるようにし、字間が 0.25a となるように作成した。これは幅を 1 として作成すると、字間が 1/6 となり、誤差が生じるためである。

マ ク ロ 等

2 倍 約 物

ダーシ、リーダー、大返しなどの 2 倍約物は 2.25zw の幅を持たせるために、縦を 112.5% に拡大したグリフを用いている。これらを、通常は使用しないと考えられる 2 バイトのギリシア文字の領域に割り当てている。

圏 点

ループの内部処理で、圏点を付けた文字のボックスの後に 2.5zw の空きが入るようにした。ループを抜けた後、空きを削除することで最後の余分な空きを消去する。

ル ビ

藤田先生の `furikana` パッケージおよび `furiknkt` パッケージを元に、グループルビおよびモノルビ用のマクロを作成した。

割 り 注

フォントを変更するために、割り注およびサブタイトル表示用のマクロを作成した。自動改行は出来ない。

欧 文

単語の場合、前後に空きを入れてグリッドに揃うようにするため、一度ボックスに入れて長さを測り、適切な空きを入れるようにしている。また、センターに揃えるため、高さと深さを測り、ベースラインを調整している。

今 後 の 課 題

- JFM で Type0-Type0 間に 0 でない空きを入れると、不用意に空きが入ってしまうことがある。
例：段落直後、改行直後
また、`kanjiskip` が入らなくなるので、調整が必要になる。
- 自動的に改行される割り注。
(実装したいが、私の力量を大きく超える)
- 調整のための詰め、空け。約物が連続した場合、グリッドから四分ずれることがあるが、現在は手作業で空けたり詰めたりしている。これを半自動で行えるようにしたい。

「人工楽園19世紀の温室」
ウィントナーガーデン
堀内正昭(訳)／鹿島出版会
シユテファン・ユツペルカム

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□作中でやまと国連軍化構想が描かれた二年後、PKO法案が通過。□自衛隊は
□実際に国連軍としてカンボジアに派兵された(年一九九三)。□やまとを認めるか否か
□で国論分裂し、与党分裂選挙に伴う新政党誕生と連合政権樹立が描かれた二
□年後、現実に保守分裂選挙の結果、非自民細川政権が誕生する(年一九九三)。□
□神秘的な予言でも、偶然の一致でもない。□マンガという媒体が大衆娯楽と
□して読者の無意識の願望に寄り添い、時代感覚を共有した結果起きたことだ。
□「米国いいなりの日本」「自民じゃダメだ」という無言の大衆の憤懣(ふんまん)が、この国
□の戦後という時代を規定してきた日米関係や戦後世界体制の変動という条
□件下でシミュレーションされた結果なのである。□米艦「エス」に向かつてヘリ
□からこのアジア・モンスーンの生んだ扁平な顔を覚えておけ！と叫ぶ自衛官
□の痛快さは、この作品の娯楽の本質をよく表している。□

何てたつて、しょせんは全部幻想なんだし現実と仮想のさかいなんて曖昧なものさ。特に恋愛となれば、なおさらね……

なんて本気でみんな思えた。言つてしまえば、俗流ポストモダンな時代の始まりだったのだ。置いていかれた人達もたくさんいたけどね。

文学の世界では村上春樹がすでにジェイズ・バーでもっと知的だったとしても同じ雰囲気をかもし出していたし、荒井^{（のち松谷）}由実の歌も似たようなフィクションの香りをさせていた。

今、ハートカクテルを読んでふんど鼻で笑うのは簡単だ。けれど、こういう雰囲気を、その場だけでも、二人の間だけでも信じられるとすれば、その人は恋愛病にかかりやすい。これも事実だ。

問題はたぶん、一度かかると治りにくく、何度でも他の相手と感染したくない。つちやうことなんだよね、じつさいの話……やれやれ。

□ | □
□ | □

夫

子

は

巧

弁

を

忌

む

こ

れ

は

：

：

ど

う

だ

ろ

う

。

し

か

く

く

□

□

□

□

□

□

ニ

ヤ

ー

く

く

□

□

□

□

□

あ 縁 えにし

あ

漢

縁 えにし

漢

あ 妖 あやかし

あ

漢

妖 あやかし

漢

あ 謀 はかりごと

あ

漢

謀 はかりごと

漢

あ 鉄 てっそ

鼠

あ

瓶 かめ

長 おさ

あ

魍 もうりよう

魎

あ

大、事、な、こ、と、な、の、で、二、回、

言、い、ま、し、た、

こ、れ、は、international
な、text

の、example
で、す、

割

り

注

(サ割
ンリ
プ注
ルの)

を

入

れ

て

み

ま

す

(前後に八分
空け
を
入
れ
て
い
ま
す)

。

注

記

(こ

う

い

う

や

つ

で

す)
を
入
れ

て

み

ま

す。

いふものゝ見始であらう。此の時妙なものだと思つた感じが今でも残つて居る。第一毛を以て裝飾されべき筈の顔がつる／＼して丸で薬罐だ。其後猫にも大分逢つたがこんな片輪には一度も出會はした事がない。加之顔の眞中が餘りに突起して居る。そうして其穴の中から時々ふう／＼と烟を吹く。どうも咽せばくて實に弱つた。是が人間の飲む烟草といふものである事は漸く此頃知つた。

□此書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐つて居つたが暫くすると非常な速力で運轉し始めた。書生が動くのか自分丈が動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思つて居ると、どさりと音がして眼から火が出た。夫迄は記憶して居るがあとは何の事やらいくら考へ出さうとしても分らない。

□ふと氣が付いて見ると書生は居ない。澤山居つた兄弟が一疋も見えぬ。肝心の母親さへ姿を隠して仕舞つた。其上今迄の所とは違つて無暗に明るい。眼を明いて居られぬ位だ。果てな何でも容子が可笑いと、のそ／＼這ひ出し

て見ると非常に痛い。吾輩は藁の上から急に笹原の中へ棄てられたのである。漸くの思ひで笹原を這ひ出すと向ふに大きな池がある。吾輩は池の前に坐つてどうしたらよからうと考へて見た。別に是といふ分別も出ない。暫くして泣いたら書生が又迎に來てくれるかと考へ付いた。ニヤ、ニヤと試みにやつて見たが誰も來ない。其内池の上をさら／＼と風が渡つて日が暮れかゝる。腹が非常に減つて來た。泣き度ても聲が出ない。仕方がない、何でもよいから食物のある所迄あるかうと決心をしてそろりそろりと池を左りに廻り始めた。どうも非常に苦しい。そこを我慢して無理やりに這つて行くと漸くの事で何となく人間臭ひ所へ出た。此所へ這入つたら、どうにかなると思つて竹垣の崩れた穴から、どある邸内にもぐり込んだ。縁は不思議なもので、もし此竹垣が破れて居なかつたなら、吾輩は遂に路傍に餓死したかも知れないのである。一樹の蔭とはよく云つたものだ。此垣根の穴は今日に至る迄吾輩が隣家の三毛を訪問する時の通路になつて居る。偕邸へは忍び込んだもの

いふものゝ見始めてあらう此の時妙なものだと思つた感じが今でも残つて居る第一毛を以て裝飾されべき筈の顔がつる／＼して丸て藥罐だ其後猫にも大分逢つたがこんな片輪には一度も出會はした事がない加之顔の真中が餘りに突起して居る。そうして其穴の中から時々ぶら／＼と烟を吹く。どうも咽せぼくて實に弱つた是が人間の飲む烟草といふものである事に漸く此頃知つた。

此書生の筆の裏でしばらくはよい心持に坐つて居つたが暫くすると非常な速力で運轉し始めた書生が動くのか自分丈が動くのか分らないが無暗に眼が廻る胸が悪くなる到底助からないと思つて居るとどさりと音がして眼から火が出た夫迄は記憶して居るがあとは何の事やらいくら考へ出さうとしても分らない。

よと氣が付いて見ると書生は居ない澤山居つた兎兼が一疋も見えぬ肝心の母親さへ姿を隠して仕舞つた其上今迄の所とは違つて無暗に明るい眼を明いて居られぬ位だ果てな何でも容子が可笑いものごとく這ひ出し

て見ると非常に痛い吾輩は藁の上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

漸くの思ひて笹原を這ひ出すと向ふに大きな池がある吾輩は池の前に坐つてどうしたらよからうと考へて見た別には是といふ分別も出ない暫くして泣いたら書生が又迎に來てくれるかと考へ付いた「ミスター」と試みにやつて見たが誰も來ない其内池の上をさら／＼と風が渡つて日が暮れかゝる腹が非常に減つて來た泣き度でも聲が出ない仕方がない何てもよいから食物のある所迄あるかうと決心をしてそろりそろりと池を左りに廻り始めたどうも非常に苦しいそこを我慢して無理やりに這つて行くと漸くの事で何となく人間臭ひ所へ出た此所へ這入つたらどうにかなると思つて竹垣の崩れた穴からとある邸内にもぐり込んだ縁は不思議なものであるし此竹垣が破れて居なかつたなら吾輩は遂に路傍に餓死したかも知れないのである。一樹の蔭とはよく云つたものだ此垣根の穴は今日に至る迄吾輩が隣家の三毛を訪問する時の通路になつて居る借邸へは忍び込んだもの